

患者のための治療を

生殖医療

命が始まる瞬間

第一部 不妊大国 ⑤

問われる現場

治療は難しいです。そんな伝えと、強い口調で詰め寄られた。「高齢でも妊娠する人はいるじゃないですか。何で私が諦めないといけないんですか」。女性は45歳。少し前に結婚し、直ちに不妊治療を受けたという。「あなたの年齢で治療を始めなくても、出産の可能性はほらいんです」。女性はこちらをにらみつけ、しばしば押し黙ってから診察室を出て行った。

4年前のことだ。この女性に限らず、40代でも体外受精など高度な治療を受ければ必ず産めると誤解している患者が増えていると感じていた。昨年春、倉敷中央病院(倉敷市)産婦人科部長の本田徹郎医師(51)は、ある決断をする。病院として45歳以上の新規の患者の受け入れを、原則断る方針を打ち出したのだ。

線引きは「責任」

「45歳で不妊治療を始めた場合、無事に出産できる確率はゼロに近い」と本田医師。高齢での妊娠・出産は母体にも胎児にも大きなリスクを負わせる。妊娠したとしても、妊娠高血圧症候群や出産時の大量出血を招く可能性が高い。また、卵子の老化が胎児の染色体異常を招き、流産や赤ちゃんの先天的障害の要因となるものが分かっている。そこに膨大なエネルギーを使い、資力を注ぎ込んで、患者が

高齢妊娠のリスク啓発

安全よりビジネス 危惧



高齢妊娠のリスクを説明する本田医師(倉敷市)

幸せになるとは思えなかった。一意見として「治療は難しい」と伝えるのではなく、病院として受け付けられない。厳しいようだが、出産可能な年齢について医療機関が啓発しなければという、強い思いがあった。

本田医師は「母子の健康を一番に尊重するのは、医療者の責任でもある。線引きはなむを得ないと考えています」と言葉を切った。

もう一つ、心掛けていることがある。体外受精で採卵が10回



患者夫婦の話を聞く見尾医師(米子市)

を超えた場合、しかも患者が治療を継続すべきか悩んでいる場合、「妊娠は非常に難しい」と伝えるようにしている。たとえ年齢が若くても、だ。

治療に区切りをつけやすくするよう、背中を押すことも医療の使命と感じている。治療が成功しなかった後も、患者の人生は続くんです。夫婦の幸せは子どもができて、できないだけで決めるものではない。そこに思いをはせながら、医師は行動しなければと思っています。

跳ね上がる費用

体外受精など高度な不妊治療が広がり始めたのは、ほんの30年ほど前。膨らむニーズに応えるように治療施設は急増した。日本産科婦人科学会に登録しているのは2015年に5099施設で、主要国最多とされる。

巨大化した不妊治療界の一部で、いびつな医療が施されている。専門的にみて「全く同じ治療法を続けても効果は薄く」と分かるケースでも、漫然と同じ治療を続ける。そんな施設が残念ながら存在します。治療に30年以上携わる「ミオ・ファ

ティリティ・クリニック(米子市)院長の見尾保幸医師(66)は話す。

不妊治療は保険の利かない自由診療。長引いたり、内容が高額になったりすればその分、費用は跳ね上がる。「医療者がもうけやすいビジネス」の側面を併せ持つ危しさは否めない。実入りが良いとだから参入したい。「婦人科を掲げる以上、不妊にも対応しない」と患者が責められない。医師のそんな「あきれられる言葉」を耳にした経験もあるという。

JT-SARTでは、治療の安全性や患者の精神ケア、スタッフ教育などの国際基準に基づいた独自の施設認証制度を設け、審査している。「技術進歩で赤ちゃんを授けたい」という夢をかなえられなくなった半面、一昔前はなかった新たな治療リスクに患者をさらしかねない時代。医師はそれを自覚した上で自分の技量や施設の質を高め、患者本位で臨み続けなければ、治療に携わる資格はありません」と指摘する。

(標葉知美、教通孝匡)

体外受精できる施設 日本が主要国で最多

各国の高度生殖医療施設数(2010年)



※欧州生殖発生学会(ESHRE)、米疾病対策センター(CDC)の資料に基づいて作成

不妊治療を受ける人が増えているのは日本だけではない。女性の社会進出に伴って晩産化が進む中、不妊は先進国共通の問題となっている。また、世界的に見ても体外受精などの高度生殖医療の施設数は日本が突出している。

各国と比較できる2010年に日本産科婦人科学会に登録していたのは624施設。人口が約2.5倍の米国の443施設を大きく引き離し、主要国で最も多くなっている。

一方で、日本の体外受精の治療一回当たりで無事に赤ちゃんが生まれる割合は18%(03年)。米国38%、英国29%など比べて低く、50カ国中の45位というデータがある。背景の一つに、無事に出産まで至る確率の低い高齢の患者の割合が、他国と比べて高いことが指摘されている。

連載へのご意見をお寄せください。ファクス082(291)5828メールkurashi@chugoku-np.co.jp